

BEFORE THE CAPTURE

A Brief Outline of Pre-Capture Judgment in Photographic Practice

撮影以前とは何か

Shintaro Yoshikawa / shintarrow

2026

本稿は、写真を撮る瞬間そのものではなく、その直前にどのような判断が起きているのかを考える試みである。筆者の撮影実践において、写真はシャッターが切られた瞬間から始まるのではなく、それ以前に形成されつつある判断の過程として立ち上がる。対象、空間、距離、光、動き、沈黙、時間感覚といった複数の条件が変化し始めた時点で、撮影判断はすでに形成されつつある。本稿では、撮影を単なるカメラ操作や構図選択の問題として扱うのではなく、撮影者が場の変化をどのように察知し、どの段階で反応し、どのようにシャッターへ至るのかという実践知の問題として捉え、その「撮影以前の判断構造」の概要を提示する。

1. THREE PROPOSITIONS

Proposition 1

撮影者は、対象ではなく条件群を見ている。

撮影判断は、単一の被写体や視覚情報だけでは成立しない。距離、光、動き、沈黙、対象の緊張、身体感覚などが一時的に関係を結んだとき、撮影可能性は立ち上がる。

Proposition 2

シャッターは、判断の始点ではなく収束点である。

シャッターは、撮影判断が始まる地点ではない。対象を見つけ、距離を測り、待ち、近づき、引き、撮るか撮らないかを判断する。その複数の判断が一時的に収束した地点で、シャッターは切られる。

Proposition 3

撮影技術とは、状態に応答する距離の技術である。

撮影技術は、カメラの操作だけでは成立しない。場の状態を察知し、近づくのか、待つのか、介入するのか、撮らないのかを判断する。撮影者は、対象や場を変化させながらも、変化させすぎない距離を探っている。

2. KEY CONCEPTS

撮影以前 Pre-Capture

単にシャッターが切られる前の時間を指すのではなく、撮影者が対象や空間の変化を察知し、撮影行為に至るまでの判断過程全体を指す領域。写真が成立する以前に、写真へ向かう条件が形成されつつある段階。

判断構造 Judgment Structure

撮るか撮らないか、近づくか待つか、声をかけるか沈黙するかといった複数の条件を統合し、撮影可能な状態として認識する枠組み。明確な手順ではなく、反復する実践を通じて身体化される。

状態察知 Perception of State

対象が動く前、風景が完成する前など、変化が明確な出来事として顕在化する以前に、場が撮影可能な状態へ移行しつつある張力や予兆を感じ取る能力。

実践知 Practice-Based Knowledge

理論として先に存在するのではなく、反復する実践の中で形成される暗黙的な知。本稿はこれを単なる感覚や偶然として扱わず、事後的に記述可能な構造として捉える。

3. OBSERVATIONS FROM PRACTICE

動物撮影における前兆

動物を撮影するとき、判断は明確な動作が起きた瞬間から始まるのではない。耳の向き、重心の移動、呼吸、筋肉の緊張など、動作以前の兆候を全体の状態変化として受け取っている。

人物撮影における関係的距離

人物を撮影するとき、重要なのは表情だけではない。近づきすぎれば対象は閉じ、離れすぎれば関係は生まれない。そのあいだで、撮影者は距離、沈黙、言葉、緊張の状態を判断している。

空間撮影における収束

風景や空間の撮影では、光、影、風、人の通過、場所の時間感覚などが一時的に重なり合うことがある。撮影者は、出来事そのものではなく、状態が収束しつつある過程に反応している。

4. POSITION

本稿は、学術論文として普遍性を主張するものではない。筆者の撮影実践に反復して現れる判断の形式を、実践知として記述するための構造論考である。

写真は、押されたシャッターの結果であると同時に、それ以前に形成された判断の痕跡でもある。そのイメージが成立する以前に、どのような判断構造が存在し、どのように場が読み取られていたのか。その手前にある判断の層を読むことは、写真を単なる結果ではなく、実践の痕跡として捉え直すことでもある。

Full essay: Before the Capture (Practice-Based Structural Essay 01, 2026)